



研究者名※	佐々木 陸摩 SASAKI Rikuma	学位※	博士(スポーツ科学)
所属※	人間社会学部 現代社会学科	職名※	助教
連絡先	sasakir@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/sasakir		
研究分野※	歴史学		
研究キーワード※	科学、知識、権力、身体、精神、体育、スポーツ		
共同研究・競争的資金等の研究課題			
社会貢献・産学官連携活動等			
受賞歴			

研究領域	スポーツ史	(SDGs)
研究テーマ※	日本におけるスポーツ科学の知的基盤に関する歴史研究	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】 スポーツと科学、とくに医学との関係について関心があり、これまでは1920~30年代日本で「スポーツ医学」と呼ばれた営為が誕生した経緯やその意味についての歴史研究を進めてきた。非西洋の日本が西洋化を目指すという自己矛盾をその精神に刻み込んできた近代日本において、スポーツと医学という2つの洋学が、なぜ、いかにして結びつき、スポーツ医学はいかなるものとして展開したのか。またそれは、戦前から戦後のスポーツ科学と呼ばれる営為へどのように連続/断絶したのか。こうした問いをふまえ、政治的あるいは社会的に価値中立的ではあり得ず、文化的な行為主体として振る舞うスポーツと医学が、日本においていかなる関係を形成してきたのかを明らかにする。このことにより、日本社会におけるスポーツやスポーツをする身体的位置づけの変化、それらをめぐって発動する諸力の関係性、その背景にある同時代の複層的な社会構造や人びとの心性のあり様などについて読み解くことを目指している。</p> <p>【応用例、研究の展望】 戦前・戦時下の日本でスポーツ医学や体力医学と呼ばれた営為に関与した医学者の思想や行動を、同時代の新聞や雑誌などの史料に即して検討する。戦前期のスポーツ医学者の言動をみてゆくと、体育やスポーツ、そしてそれらを取り巻く環境をめぐって生じている現代的な問題や論点の多くが、すでに1930年代までには議論されていたことに気づかされる。同時代の社会がスポーツやそれをする身体に何を仮託してきたのかを問う視点から歴史研究に取り組むことは、現代社会やスポーツを取り巻く環境を批判的に考えるうえでも興味深く、また重要だと考えている。</p> <p>【研究方法の特色】 欧州を中心とした国際的広がりをもつスポーツ医学の視点から日本のスポーツ史を捉えなおす。戦前日本のスポーツ医学者の思想や行動に着目し、それらを同時代のスポーツを取り巻く国内外の情勢、個人や集団のイデオロギーの絡み合いのなかで検討する。</p>	
本研究関連特許・論文等	<ul style="list-style-type: none"> ・佐々木陸摩「戦前日本におけるスポーツ医学の台頭：1930年代前半におけるその理念と実践を中心にして」『スポーツ科学研究』、20巻、73-93頁、2023年。 ・Rikuma Sasaki and Kohei Kawashima, "The Birth of Sports Medicine in Prewar Japan: A Perspective on Its Ideological and Organizational Origins." <i>The International Journal of the History of Sport</i> 38(8): 913-933, 2021. 	
共同研究・外部機関との連携への期待		